ゴールドフェスティバル2026

金購入
よくある相談ベスト5

現物資産の地金・金貨を買う前に決めておきたいこと

― 店頭で実際に多くいただくご相談TOP5をお伝えします ―

※本資料は情報提供を目的としたものであり、特定の商品の購入・売却を勧誘するものではありません
※価格・手数料・税制は時期および販売店により異なります。売買の前に必ず最新の条件をご確認ください
※相続・贈与・大量売買については、税理士等の専門家にご相談ください

今回のセミナーでお伝えすること

1. **何を買うか**
   地金と金貨の違い、そしてサイズの決め方
2. **どれだけ買うか**
   資産全体に占めるウェイトの決め方
3. **どこに置くか**
   保管方法と、家族への伝え方
4. **いつ・どの形で買うか**
   買い時の考え方と、現物かペーパーアセットか

現物で持つ、ということ

現物ならではの強み

- ✓ 発行体がなく、国の信用と無関係
- ✓ 世界中どこでも相場に従い換金可
- ✓ 1本ずつ現物のまま子や孫に渡せる
- ✓ 口座もシステムも電気も要らない
- ✓ 手元にあるという安心感

現物ならではの手間

- ● 手数料が若干割高である
- ● 置き場所と盗難・紛失の対策が要る
- ● 利息や配当を生まない
- ● 購入記録を残さないと売るときに困る
- ● 持ち歩きが面倒である

この手間の部分に、ご相談が集中します

よくある相談 ベスト5

1	**第1位　品目の選び方**	**「地金と金貨、どちらを持っておくのがいいか？」**
2	**第2位　資産に占める割合**	「金はどれぐらいのウェイトで持てばいいのか？」
3	**第3位　保　管**	「現物を買った場合、どこに置いておくのがいいか？」
4	**第4位　買　い　時**	「いつ買えばいいか、買い時が分からない」
5	**第5位　現物かペーパーか**	「現物とペーパーアセット、どちらがいいのか？」

第1位から順にご説明します。どれも「買ったあと」ではなく「買う前」に決めておける話です。

よくある相談

第1位 | 品目の選び方

「地金と金貨、どちらを持っておくのがいいですか？」

値段だけで比べれば地金です。
ただ、手放すときのことまで含めると、答えは変わります。

第1位 第2位 第3位 第4位 第5位

金地金（バー）と金貨のちがい

金地金（バー）

- 地金価格への上乗せコストが小さい
  ⇒グラム単価が安く換金性で有利
- 大きいサイズほど手数料が安い
  ⇒500g以上は手数料無料が多い
- 5g～1kgまでサイズの種類が豊富
- 製造元の信用リスクが付きまとう
- 取得価格が分からなくなった場合、照合するのが難しい

金　貨

- 一番大きいサイズで1oz：31.1035g
  ⇒1/2・1/4・1/10ozもある
  ⇒単価が安く贈与や相続しやすい
- 手数料が地金より割高（プレミアム）
  ⇒グラム単価が高く換金性でやや不利
- 細かなデザインがあり趣向性が高い
- 製造元が造幣局であり売買しやすい
- 年号刻印があり入手時期が分かりやすい

「安く持つ」なら地金、「分けて渡す・趣向品」なら金貨

※どちらも金の価値そのものは同じです。違うのは、買うときの上乗せ分と、手放すときの分けやすさです。

小さいほど1gあたりの手数料は重くなります

規　格	バーチャージ（田中貴金属工業の手数料）	1gあたりの手数料負担
5g	8,800円	1,760円/g　← 非常に重い
20g	8,800円	440円/g　← 重い
100g	16,500円	165円/g　← 軽い
500g・1kg	無料	0円/g　← 負担なし

大きい地金ほど手数料は軽くなります

※上記は考え方をお示しするための仮の金額です。バーチャージの実額と無料になる規格は、販売店および時期により異なります。ご購入前に必ず当日の料金表でご確認ください。
※金貨の場合は、この上乗せが「プレミアム」として価格に含まれます。

品目とサイズは「出口」から逆算して決めます

こうしたい方は	向いている買い方	理　由
資産の目減りを止めたい（税金を全く気にしない）	500g・1kgの地金	手数料の負担がもっとも軽く、長く持つほど差が出ます
いずれ何人かに分けたい	50g以下の地金や金貨を複数	1本を切って分けることはできません。本数で分けます
少しずつ売るかもしれない	金貨、または小型の地金を複数	必要な分だけ手放せます。全部を売らずに済みます
贈り物にしたい	金貨	1枚で完結し、受け取る側にも分かりやすい形です

最近は20g以下の地金か金貨の需要が高いです

よくある相談

第2位 | 資産に占める割合

「金はどれぐらいのウェイトで持てばいいですか？」

万人に当てはまる正解の比率はありません。
ただ、決め方の手順は決まっています。

第1位 | **第2位** | 第3位 | 第4位 | 第5位

持つ量は、先に上限を決めます

目安は、資産全体の15%程度

人によって前後します

- 年齢・収入・他の資産の中身で適正は変わる
- 動かせない資産が多い人ほど、金の役割は大きい
- 金は利息も配当も生まない全部を金にする必要はない

比率より先に決めること

- ✓ 生活防衛資金（生活費の半年～1年分）は別枠で
- ✓ 金に充てる上限を先に決めておく
- ✓ 「もう少し」を繰り返さないと決めておく

※あくまで目安です。適正な比率は、資産全体の構成やご家族の状況によって変わります。

これといった投資をしていないなら、20%以上でも

決め方は、この順番です

手　順	やること	ポイント
1　全体を把握する	預貯金・株・不動産・保険まで 書き出す	金だけを見て、 適正な量を決めることはできません
2　上限を決める	「資産全体の20%まで」など、 先に数字にする	買ってから考えると、 必ず増えていきます
3　分けて埋める	上限まで一度に買わず、 回数を分ける	第4位「買い時」の話に つながります
4　年に一度見直す	資産全体に占める比率を確認する	金が値上がりすると、 比率は勝手に膨らみます

攻め（株）・守り（ゴールド）・維持（現金）のウェイトを決めること

よくある相談

第3位 | 保　管

「現物を買ったら、どこに置いておくのがいいですか？」

安全性だけで選ぶと、多くの方が後で困ります。
判断軸は「量」と「取り出しやすさ」です。

第1位　第2位　**第3位**　第4位　第5位

保管方法は3つ。それぞれに弱点があります

保管方法	向いているケース	気をつけること
自　宅	少量（数十g～100g程度） すぐ手元で確認したい方	盗難・火災。 家財保険の対象外となる場合があります 置き場所を誰にも伝えないと、そのまま行方不明に
銀行の貸金庫	まとまった量を長期で持つ方	年間の利用料がかかります 名義人が亡くなると、 相続手続きが済むまで開けにくい
販売店の預かり	手続きをまとめたい方 自宅に置きたくない方	保管料。地方などではサービスがないこともある。 預ける先の信用と、預り証の内容を必ず確認

問題は「安全かどうか」ではありません

見つけてもらえない金は、無いのと同じです

家族に伝えておく3点

- ✓ 金の保管場所
  （自宅／貸金庫の銀行名／預け先）
- ✓ 購入書類の保管場所
- ✓ 困ったときの相談先
  （買ったお店の連絡先）

よくある残念なケース

- ● 遺品整理で出てきたが、
  本物か分からず放置された
- ● 貸金庫は見つかったが、
  すぐには開けられない
- ● 購入書類が無く、
  取得費を証明できなかった

※購入時の計算書は、金そのものと同じくらい大切です。
売却時の税金の計算に使います（詳しくは後半の補足で）。

よくある相談

第4位 | 買　い　時

「いつ買えばいいか、買い時が分かりません」

これもよくいただきます。
そして、私どもがもっともはっきりお答えできないご質問でもあります。

第1位　第2位　第3位　**第4位**　第5位

相場の先を当てにいかない、という選び方

- 金の価格は、為替・金利・各国中央銀行の動き・地政学リスクで動きます。
  先行きを断言できる人はいません
- 一方で「下がったら買おう」と待ち続けて、
  何年も買えなかった方を、何人も見てきました

まとめて買う

- 手数料は1回分で済む
- その日の価格が取得単価になる
- 直後に下がると当面含み損を抱える

分けて買う（時間分散）

- ✓ 買う時期をずらし、取得単価をならす
- ✓ 高値づかみの一点集中を避けられる
- ✓ 購入回数の分、手数料はかさむ

分散は「当てにいく」のではなく「当てなくてよくする」方法です

※どちらが有利だったかは、後になってから分かります。
まとまった資金でも、3回・6回に分けて買う進め方は十分に現実的です。

相場を見ないで買う「仕組み」を先に作る

回　数

何回に分けるかを決める

3回・6回・12回など予算に応じて、サイズで割る

日　付

買う日をあらかじめ決める

毎月◯日など、相場を見ずに機械的に買う

自動化

純金積立という選択肢

毎月決めた金額分を自動的に購入し、保有リスクがない

買い時の選択はプロでも難しいため、仕組みで対処

よくある相談

第5位 | 現物かペーパーか

「現物とペーパーアセット、どちらがいいのですか？」

値動きの元になる金価格は同じです。
違うのは、コストと手間と、手元に残るかどうかです。

第1位 第2位 第3位 第4位 第5位

金を持つ4つの方法

方　法	強　み	弱　み
現物（地金・金貨）	手元に残る。発行体がない 現物のまま分けて渡せる	保管と盗難リスク。 売買のスプレッドと手数料
純金積立	少額から時間分散できる。保管が要らない 現物に替えられる商品もある	年会費・購入手数料。 運営会社の信用を確認
金ETF・投資信託	売買が手軽で、コストが低い	証券口座が必要。 原則、現物は受け取れない
金鉱株・関連ファンド	金価格以上に大きく動くことがある	企業の業績リスク。 金価格と連動しないことも

※「どれが儲かるか」ではなく「何のために持つか」で選び分けるものです。
一つに絞る必要もありません。

向き不向きで分かれます

現物が向いている方

- ✓ 手元に残しておきたい
- ✓ 家族に現物のまま分けて渡したい
- ✓ 口座や金融機関を介さずに持ちたい
- ✓ 長く持ち、頻繁には売買しない
- ✓ 相続や贈与しやすい

ペーパーが向いている方

- ● 少額から毎月積み立てたい
- ● 売買のタイミングを機動的に取りたい
- ● 保管の手間と盗難リスクを避けたい
- ● 既に証券口座を使っている
- ● NISA口座の利用で非課税で運用可

「増やす」ならペーパー、「残す・守る」なら現物
どちらかというよりはどちらも・・・というイメージ

【現物】買う前に把握すべき往復コスト

確認する項目	内　容	効いてくる場面
スプレッド	同じ日の「小売価格」と「買取価格」の差	買った瞬間から、この差の分だけマイナスで始まります
バーチャージ	地金に掛かってくる1本あたりの加工費	小さい地金を何本も買うと、積み上がります
金貨のプレミアム	地金価格に上乗せされるデザイン・製造コスト	売るときは地金相場に近づき、上乗せ分は戻りません
売却時の手数料	買取手数料・分析料・振込手数料など	手放すときに、受取額から差し引かれます

地金商・取扱店により異なるため、事前確認で把握しておく

【現物】売買時における手続きや税金

場　面	かかるお金	手続き・注意点
買うとき	商品代金＋消費税 ＋バーチャージ（小型地金・金貨）	顔写真付き本人確認書類が必要 （税務署への申告はない）
持っている間	原則なし （貸金庫料などの保管費用のみ）	値上がりしても、贈与・相続・売却が なければ基本的に何も発生しない
売るとき	売却代金から手数料を 差し引いた金額を受け取る	1回200万円超の売却取引となった場合、 買取店が税務署へ支払調書を提出
利益が出たとき	譲渡所得として課税（総合課税）	年間50万円の特別控除。 保有5年超なら課税対象は1/2

※購入時の計算書は必ず保管してください。取得費を証明できないと、売却時の税金の計算で不利になります。
※税額や申告の要否はご本人の所得状況によります。判断の前に税理士等へご確認ください。

今回のまとめ ― よくある相談ベスト5

1	**品目の選び方**	**換金性なら地金、分けて渡す・趣向品なら金貨**
2	**資産に占める割合**	上限額を先に決め、目安は資産全体の15%～20%程度
3	**保　管**	安全性より「家族が見つけられるか」。書類とセットで持つ
4	**買　い　時**	当てにいかない。相場を見ないで買う仕組みを先に作る
5	**現物かペーパーか**	増やすならペーパー、残す・守るなら現物。併用も選択肢

これから金（ゴールド）を買われる方は参考にしてください

金購入 よくある相談ベスト5

金を買うこと自体は、5分で終わります。

決めておくことの方が、ずっと大切です。

迷ったときは、買う前にご相談ください

※本資料は情報提供を目的としたものであり、特定の商品の購入・売却を勧誘するものではありません
※価格・手数料・税制は時期および販売店により異なります。売買の前に必ず最新の条件をご確認ください
※相続・贈与・大量売買については、税理士等の専門家にご相談ください

本資料の取り扱いについて

- 本資料はマーケット情報の提供を目的としたもので、特定の商品の勧誘及び販売を目的として作成されたものではありません
- 本資料で提供する情報については万全を期しておりますが、その情報の正確性を保証するものではありません
- データ･見解は作成時点の見解を示すものですが、本資料により被った損害を補償するものではありません
- 本資料を参考に投資を行う場合、投資にあたっての最終判断はお客様ご自身の判断でなさるようお願いします
- いかなる目的に関わらず、転載、複製、引用することを禁じます
- 本資料をキャプチャし、SNS等での拡散も禁じます